

# 森林環境教育におけるリーフアート (葉っぱ切り絵)の可能性について

網走西部森林管理署 酒井 裕史、中島 憲司

## 取り組みの背景・目的

当署では、令和7年度から環境広場さっぽろへの出展等、リーフアートを活用した森林環境教育に取り組んできました。こうした中、当署管内の3つの小学校から森林教室の開催要望があったことから、リーフアートをを用いた森林教室を実施しました。

児童たちにもっと日常的に森林と親しむ機会を増やしてもらうために、森林教室前後に児童へのアンケートを実施し、森林に対する意識がどのように変化するかを分析し、リーフアートを活用した森林環境教育の可能性を考察しました。



## 取り組み内容・結果

### ▶森林教室プログラム

- ①身近な樹木の葉の観察(色々な葉っぱを触って、樹種による特徴を感じる)
  - ②エゾユズリハの観察(エゾユズリハの葉を五感を使ってじっくりと観察する)
  - ③エゾユズリハクイズ(エゾユズリハの生態的特性をクイズで楽しく学ぶ)
  - ④リーフアートの実践(地域にある題材を切り取り、地域への愛着を高める)
- ※エゾユズリハは、北海道に自生する樹種としては、数少ない常緑広葉樹のひとつで、日本海側及び知床半島等のオホーツク海側に分布しており、リーフアートの材料に適している。



### ▶アンケート分析

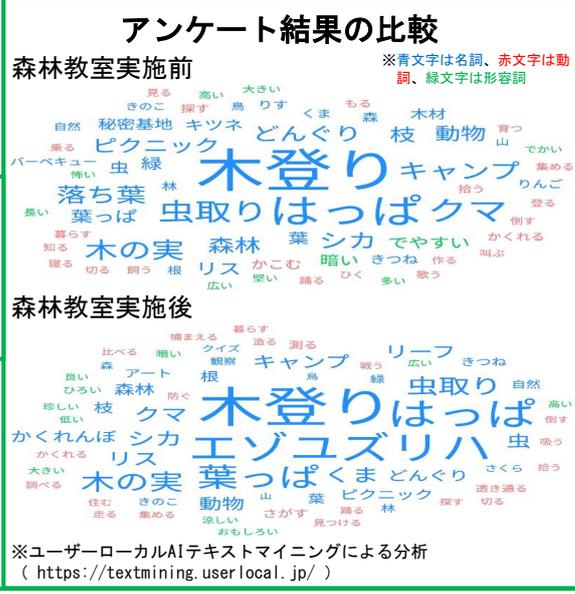
リーフアート体験における児童の意識の変化を検証するため、同じ内容の質問を森林教室実施前と実施後に行い、回答にでてくる「ことば」にどのような変化があるのか分析を行いました。

**アンケート内容**

- ・木と聞いて思いつく言葉
- ・森と聞いて思いつく言葉
- ・森でやりたいこと

**アンケート対象人数**

白滝小学校	11人
遠軽小学校	20人
芭露学園	30人



**分析**

- ・「エゾユズリハ、さくら」や「リーフアート」等の固有名詞が実施後に新たに出てきた。
- ・森林に対して「暗い、怖い」等のネガティブな言葉が減り、「広い、気持ちがいい」等のポジティブな言葉が増えた。
- ・葉っぱ探しや樹木の高さを測りたい等の具体的にやりたいことが増えた。
- ・葉っぱをリーフと呼ぶ児童が増えた。

**考察**

アンケートの結果、森に対して興味や良い印象を持つ児童が増えたとともに、森林を身近なフィールドと捉え、森の中で遊びたいことや森に対する解像度が高まり、抽象から具体的に考える児童が増えたと推察する。

### ▶インタビュー

網走南部森林管理署の「もりのめ」メンバーが、リーフアートをを用いた森林教室を実施したことから、今後の展開の参考とするため、インタビューを行いました。

**インタビュー結果**

「自ら採取した葉っぱでリーフアートの作品を作ったり、屋外でやるのがいい」、「リーフアートのマニュアルを作って、誰でもリーフアート教室ができるようになればいい」等、さらなる飛躍へつながるヒントをもらうことができました。



## 今後の展開

森林教室を実施した結果、リーフアートが児童への森林に対する興味関心を高める手法として有効であることが確認できました。今後は、リーフアートをマニュアル化し、森林環境教育ツールとして普及してまいります。また、国有林の地域振興の一つとして、その地域にあるものを題材にしたリーフアートを行うことで地域の方に森林が身近にあることを知ってもらい、さらに国有林への関心が高まるよう取り組んでまいります。

